



片歌舊笈集

中村俊定文庫

文庫 18

431



新
春
の
歌
集
の
序
文
を
記
す

明和四丁亥

片借集

水口山房

心一極の歌は海を渡る一紀の
大空く悲し今も心は静かに
しやうの世に乃世に人らも歌
詠歌は歌なりやあふふと
あはれとせうかた序にのみ
の序をいふをよむは
さうさ暖を理うたは

まごに秀、彦、さ友、さま、か、決、い、つ、ま
是、小、は、う、く、若、い、こ、い、ま、す、し、じ、ま、
う、ふ、い、ま、は、い、び、こ、ま、た、は、い、ま、い、あ、ま、い、
あ、り、う、く、も、あ、い、ま、も、あ、い、ま、い、
い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、

まごに秀、彦、さ友、さま、か、決、い、つ、ま
是、小、は、う、く、若、い、こ、い、ま、す、し、じ、ま、
う、ふ、い、ま、は、い、び、こ、ま、た、は、い、ま、い、あ、ま、い、
あ、り、う、く、も、あ、い、ま、も、あ、い、ま、い、
い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、
は、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、あ、い、ま、

とちかかふあふちかへん
結んぬおまなむらくは
つらうらむもあふちかへん
ふねよあふちかへん
言くくあふちかへん
ははあふちかへん
おしあふちかへん

かきあふちかへん
たまふちかへん

雪麿

イ 怨

うづひを

きりさき

ふとまに

むし

冬 序 づ け け け

おぼろ月

夏 如 柳

卯 が ほ

交 ぬ

い 記



御須麻流乃葩

冬 序 づ け け け

け も わ け け け け け け け け

け け け け け け け け け け

今 又 も け け け け け け け け

喜 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

雪 の 跡 け け け け け け け け



江戸

りて道

上毛勢

みつご

出 梅

さき

信州松

左 右 見

江戸

や 大 巻

よき言根

芳 礎

志良多麻乃韻

ゆくあし雁はすしも海おほる月
津杉は雲間にあそぶ
まよひの音をかきとあろも
手はあか海や海のまじり
ゆりもそあそゆけむ里を
ふと木を柳うさぎの雪ぬ

^{ウラ}裏ふひー砦にきのおるが
帆とそふとまごのふんーが
枕のそ蹴踏あせこはうくにさく
まよひを小波はさたりやう
霜^{カスミ}のまよひの夕は月ハたが
雪にちきぬらふこちや
ゆらゆらあしに飛ぶこち

とまよひ
女とよ

ツエシモ

霏の霧とる水ふるあしがほる一 意

江戸

あが^{ツカ}紅の錦日夕日にうらひを結啼く ひとえ

武蔵

柳花をまゝふつを分のほろ浮野に

とまふづ

月言く^{ウノハナ}ふ荊花依一ほろふに つきさ

善會にうさ踊者せうくは結ゆさ

江戸

夏あぬとた^{ハナ}み柳花志はうは侍 志 菱

叶結青に書ぞ解る侍と菱はめぬ

ささゆくあゆをたどほごそけ 丁急 江戸 五

とまふづ

あいのうさあさうさ志賀ははらうさ

とまふづ

山をうさなに又くつおぼろつさ 小侍

江戸

柳はま^{ハナ}片山岩の日とたそ^{ハナ} 菱

あがふ

たさう^{ハナ}位一の浮舟柳の岸にはく 末了

とまふづ

うさ^{ハナ}の啼くや錦ゆく山さとり 菱

とまふづ

うさ^{ハナ}のほろ志づさうさうさ家小侍く 川 夕

六

武井

うきやかく海も時花もさし

とま

たぐひのまのまに夏を

に

かざろひの夕梅にる

日

物思ふそらにわつた

とま

朝舟ふさこ昇は日如

あは

野に依さまれ入日や

加賀松任

晴うぬまのいこ

素因

とま相生

朝の傍くやと志がむ

下元是利

夕朝音花はぬと

に

花どしはおひもつる

武能

アシタツ 花の拂ひ

とま

うきや梅一りうのは

日

うきをたあまく

武井

うき花ををまけ

雨

上毛のせい

うづまののぶくしおのさきうふど えんぼ

上毛のせい

うづまののぶくしおのさきうふど

曰

うづまののぶくしおのさきうふど

南朝のせい

うづまののぶくしおのさきうふど

社玉

うづまののぶくしおのさきうふど

京

うづまののぶくしおのさきうふど

上毛のせい

うづまののぶくしおのさきうふど

女おとけ

曰相生

東海ハ船行くはさうじおほろはさ 喜酒

曰お橋

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

曰たこ

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

出村をう

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

曰

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

女おとけ

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

曰

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

女おとけ

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

女おとけ

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

女おとけ

東海ハ船行くはさうじおほろはさ

女おとけ

佐州のり

香うきー柳之かくぞおほろつさ 日下海州

志賀も時松杉けひさ 日下海州 終合

下 日 仙好

梅にま 日下海州 如林

終月物 日下海州 古由

ま 日下海州 小影や

判の 日下海州 枝のび 日下海州 松 日下海州 暮 日下海州 曉雨

野 日下海州 蘇つ 日下海州 蘇は 日下海州 み 日下海州 け 日下海州 ぞ 日下海州 ち 日下海州 ち 日下海州 直矩

松 日下海州 姑 日下海州 は 日下海州 く 日下海州 岡 日下海州 や 日下海州 東 日下海州 に 日下海州 山 日下海州 も 日下海州 なく 日下海州 み 日下海州 は 日下海州 ー

松 日下海州 さ 日下海州 ー 日下海州 ぬ 日下海州 野 日下海州 山 日下海州 由 日下海州 へ 日下海州 と 日下海州 里 日下海州 の 日下海州 丁 日下海州 終 日下海州 曉雨

松 日下海州 の 日下海州 茶 日下海州 櫛 日下海州 は 日下海州 ー 日下海州 や 日下海州 と 日下海州 野 日下海州 を 日下海州 ー 日下海州 終 日下海州 志 日下海州 わ 日下海州 ー

若 日下海州 田 日下海州 ち 日下海州 侍 日下海州 櫛 日下海州 も 日下海州 ー 日下海州 ー 日下海州 松 日下海州 姑 日下海州 ち 日下海州 ち 日下海州 榎 日下海州 吉

雁 日下海州 ー 日下海州 の 日下海州 こ 日下海州 ん 日下海州 ち 日下海州 ー 日下海州 ー 日下海州 里 日下海州 ハ 日下海州 ー 日下海州 ー 日下海州 山 日下海州 州

杜 日下海州 鵲 日下海州 啼 日下海州 ー 日下海州 雲 日下海州 ー 日下海州 ー 日下海州 雲 日下海州 に 日下海州 入 日下海州 侍 日下海州 分 日下海州 け

目にはいりて見むいふをふかしくしる 江戸 百身

唯そことふれしも言しはる 江戸 女 夢 鳥

雲やあふふらやうし 江戸 望 来

こもく 江戸 玉 か 屯

杜鵑木のく 江戸 如 意

水あふく 江戸 雨 付

多るく 江戸 雨 付

はる水に柳をささく水言 江戸 百身

ささく 江戸 東 李

きり 江戸 梅 星

手 江戸 九 鏡

壺 江戸 笑 林

は 江戸 若 子

ま 江戸 牛 子

獨居く秀しめお話いと雪いん 枕まくら

詩にても字けは石の音言とよ 変かへ 倭水やまとみづ

遊ユチコチをに非生えく家いへ 涼すず 一ひと 寛之かん

潮うしほき一ひと 衣いやしくく吹く伊志いし 休やす 二ふた

今志の陽ひかりは何ははそひ一ひと ぞ 有志あつこころ

唯ただひしめあらしもか一ひと 子こ 椽えら ちを 父ちち 詞ことば

茶ちやハるどはきき日に陽ひかりき一ひと ぞ 家いへ 寝ね

ふぐしは共とも 侍さむらい 引ひくときさ茶ちやに吹く 日ひ 能よ 之こ 雪ゆき 元もと

表うらとくそる小こ 此こゝ 時とき のはくはな 日ひ 妻つま 梅うめ

雪ゆき 元もと 小こ をまきと陽ひかり 止とど めるさくはな 日ひ 妻つま 梅うめ

雪ゆき 涼すず 一ひと 足あし をまき一ひと 子こ 雪ゆき ハあれど 日ひ 妻つま 梅うめ

つとふいにまきさる音ね も折やぶ れにハ 日ひ 妻つま 梅うめ

異い 休やす の伊い 三さん と折やぶ れるさる雪ゆき 日ひ 妻つま 梅うめ

雪ゆき ぞうさまき椽えら ハ、道みち くくと 日ひ 妻つま 梅うめ

うも音にちづその経れきぶ言

江戸

ねをかきゆめり先侍梅に音ゆると

宝年

ふきや吹くと空しー

音 京

あふるに鴨吹りゆと灰 妙音 桑因

式部

赤刃むとく急しなれ本音をかしくそ

中ら

泣雪のゆきいでふけむ月まのや

英音

かくこびー吹くゆと序子来るゆと

尾丈

陽うとそさよのいりかふべー

同かめ

陸車

朝戸出に梅うもさ意はうくひまやゆく

同音

玉子

紙月のゆくはほ松ふゆ吹く

江戸

丁就

夕うぬもほちど朝ふれ時ハゆぬ

上尾音

むづ

くひまの柳うもさ日とそさ

平橋文

梅丈

松ぞうにあ月むくの柳かき

さいん

多少

空うすしとふげむゆるほと

同

再丁

只實は山と水にうらひをたづく
下はさく
紙衣の母に春のくハぬえと春も
女 玉子ぬ
は

阿加多麻乃詠

除は雪にふ玉つをさ散りしうえ
夢にわえどや詠詠しわはぬハ
うら橋にくいさうひと終 月
うらひをたづくハおの本にうつ
きさ

山陰は春さうゆぬと枕やはく
草の葉はるばる水と香もあ
うらひを静かにあく海らうとや
雪消くく野さうくと枕は兼
紙燭さうとくもあつたさうと
本にさうたうもあつたさうと
朝うぬはくもあつたさうと

杜鵑さびに雲のうらな^女い^文よ
暑き日にいづこもあを柳ま^女ど
いそぎとや花の陽^女やつれ^文よ
柳陰川にま^女い^文ざあ^意に
小夜歌人妻い急に病ぬ^女れぞ
花さけを今をま^女ど^文あ^意り
吹あけ^女萩の下枝に香^文け^意ひ^文え

月^カい^フ鶯^子を救^女く^文や^意な^文記^意る^文つ^意ま^文
あけ^女ぬ^文に^意清^文土^意の^文煙^意は^文か^意く^文と^意ま^文菱^意
衣^女の^文里^意ハ^文涉^意茅^文の^意あ^文ぬ^意り^文記^意風^文五^意
夏^女州^文の^意志^文づ^意さ^文が^意く^文に^意柳^文ま^意ど^文あ^意づ^文よ^意表^文
あ^女や^文文^意ぬ^文あ^意の^文あ^意く^文野^意を^文せ^意り^文い^意
此^女里^文ハ^意下^文照^意ほ^文ら^意ち^文や^意枕^文の^意を^文あ^意る^文を^意見^文
杜^女鵑^文汝^意り^文鳴^意く^文あ^意ハ^文の^意み^文い^意は^文よ^意あ^文ま^意い^文が

朝の日の光をまはして 子恒と見侍るぞ

うらみもやこれ来侍てまを待つく 上尾崎 女一

翠簾の影に人々あはぬおぼる月

庭をまはに成る涼し或柳を

うらみもや朝の人間に候ぞ啼く 未了

吹去るも小ラサ篠は花も雪の降子 未帆

武蔵野の暮さの中を松竹並 川夕

たぐはきやももさる東ぞ 了

源末の子来に成る雪待つとる いは

心し山はあふ小まほひぬ雪来るら 梅

東ナガにと帰る来つ候うはく ヨ 兼 いら

さしほくと雲やかまひ 不とふ 心 扇

此ノ路のほけちうひ 不とふ 素 笠

葉船も隈 不とふ 四 道

月ぞぐさやうさまに香の啼く 菅河

ついでりの火に香もあど香れあ 詠尺磨

あけ日乃さふさども子さるぬ 香

雪降くささかきゆ 糸 水

うらひまのまゝに啼く香 糸 直

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 東

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 柳

上毛歌書

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 里 陶

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 佳 月

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 杉 村

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 松 田

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 乙 磨

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 乙 磨

うらひまのまゝ水おつし香を啼ぶ 乙 磨

上毛

うさひもハ赤多紀里に控ぞ啼く 日 蓑帆

うさひまのほろひに赤く紅髪あり 日 松竹 文也

うさひまをさくう柳のかさかたぬ 日 送蹄

水多にそ歌ハ控おほ 日 月 里は

黄うが柳の紫もねろ 日 月 山鼻

子に菱の笠ハふくく 日 月 麦見

石橋さみどりさうさう 日 月 古平

市井にうのうさう 日 月 雨

ふさそを皆揃りとおほ 日 月 足

曙暗とねくむめいぞ 日 月 有竹

月何こしおとも 日 月 双舟

月崎川春に濱く 日 月 松仙

月人の事おもえく 日 月 兔園

三芳野をぬまろく 日 月 狭山

日

日

日

日

日

日

日

下毛栢木

上毛大田

下毛小石

日名

武本

上毛言崎

信州松

不ろくと雨降るおぼろ月 上毛相生

吟ひと物ぞゆく言断つ交 日 百々

直じよ読者よとわが言月 日 小や白

と中影に華ゆく梅やおぼろ月 日 妙は是 舟由

ほえつあめふのゆくおほ言月 日 近は日也 霜涼

香に梅を折るを遠は言月 日 住ぬ岩印 湖帆

水いの言者一とおぼろつき 住ぬ岩印 鷲山

押おろしに折とらかく言 日 梅を言

招きのう失くを言断つ交 日 小言 文海

おくつちくる櫓を言わたり月 日 小言 新宇

海づくに網子を言る言月 日 松言 連珠

断月独なき言と交 日 双飛

行りや戸の言ても言る言月 日 上毛浪 園雪

ふ藤と保てはくや言断つ交 日 伊藤大河 李因

生る一ハ^{タムケノカニ}祖神はおぐろ月

或わとの
子友
昔屋と壁

志の^{イサリビ}こころをさるや君ゾむ終

月

鳥 妹

漁火と終く〜と月いでぬ

日 戸
たにおと

日の清海ハ不破の舞をぞ終

月

終る

あなまつくて油おもろいど梳とねる

上を相生
如 測

日も西に^{イヘラサ}ひらきあやそそむ

日 一 夕

家^{イヘラサ}出れ^{イヘラサ}星の志^{イヘラサ}ゆき^{イヘラサ}に梳^{イヘラサ}ま^{イヘラサ}む 李完

来て^{イヘラサ}ろ^{イヘラサ}も^{イヘラサ}波^{イヘラサ}を^{イヘラサ}植^{イヘラサ}や^{イヘラサ}き^{イヘラサ}ひ^{イヘラサ}ま^{イヘラサ}ふ 白来

梳の志考^{イヘラサ}く^{イヘラサ}ほむ^{イヘラサ}に^{イヘラサ}ハ^{イヘラサ}も^{イヘラサ}も^{イヘラサ}あ^{イヘラサ}つ^{イヘラサ}と

何州松く
あやぬ

〜の^{イヘラサ}圃^{イヘラサ}の^{イヘラサ}ほ^{イヘラサ}も^{イヘラサ}き^{イヘラサ}ゆ^{イヘラサ}ま^{イヘラサ}を

日 打 則

又〜ハ^{イヘラサ}解^{イヘラサ}く^{イヘラサ}火^{イヘラサ}く^{イヘラサ}ら^{イヘラサ}や^{イヘラサ}沙^{イヘラサ}や^{イヘラサ}梳^{イヘラサ}の^{イヘラサ}志^{イヘラサ}

日 李 東

鷲の圃^{イヘラサ}〜^{イヘラサ}〜^{イヘラサ}〜^{イヘラサ}〜^{イヘラサ}〜^{イヘラサ}は^{イヘラサ}る

日 思 下

麦^{イヘラサ}谷^{イヘラサ}に^{イヘラサ}子^{イヘラサ}馬^{イヘラサ}つ^{イヘラサ}よ^{イヘラサ}し^{イヘラサ}梳^{イヘラサ}の^{イヘラサ}志^{イヘラサ}

日 鷲 子

あ〜^{イヘラサ}井^{イヘラサ}ハ^{イヘラサ}毛^{イヘラサ}梳^{イヘラサ}の^{イヘラサ}志^{イヘラサ}は^{イヘラサ}暖^{イヘラサ}は^{イヘラサ}に^{イヘラサ}く^{イヘラサ}暖^{イヘラサ}の時

日 年 路

麦 踏^ミを^ミお^ミく^ミる^ミを^ミ枕^ミに^ミか^ミ 日 桂井次

新^{ニヒ}蟹^{バリ}の時^{アゼ}に^{アゼ}は^{アゼ}し^{アゼ}し^{アゼ}し^{アゼ}し^{アゼ}し^{アゼ} 日 小法

あ^{カクニ}ま^{カクニ}梅^{カクニ}し^{カクニ}し^{カクニ}し^{カクニ}し^{カクニ}し^{カクニ}し^{カクニ} 日 麦由

た^{トモ}く^{トモ}山^{トモ}に^{トモ}ま^{トモ}く^{トモ}音^{トモ}足^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ} トモ玉川

う^ハた^ハら^ハを^ハ登^ハり^ハし^ハて^ハ飲^ハす^ハ也^ハ 日 桂山

蟹^ハさ^ハき^ハと^ハと^ハし^ハと^ハま^ハり^ハぬ^ハ トモ下仁田

お^{トモ}お^{トモ}さ^{トモ}と^{トモ}い^{トモ}ぬ^{トモ}が^{トモ}た^{トモ}ぬ^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ} トモ梅

た^{トモ}ひ^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ} 日 洗音

枕^{トモ}を^{トモ}た^{トモ}り^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ} トモ秀梅

ま^{トモ}に^{トモ}ま^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ} トモ扇意

枕^{トモ}を^{トモ}た^{トモ}り^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ} トモ鉄公大

お^{トモ}お^{トモ}は^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ} トモおお

杜^{トモ}松^{トモ}を^{トモ}た^{トモ}り^{トモ}し^{トモ}し^{トモ}し^{トモ} トモ板涼

ま^{トモ}り^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ}く^{トモ} トモ去帆

ふれど時日の飛ひくるをなくすは 日 硯文

すけぞゆしすよとあかしくは 日 能 梅 釣

はらふのしつゝあはれなやまに 日 東 市

あくくはいひもあしむを 日 大 田 計 之

子刈とてまを 日 双 魚

武蔵野も使しとをいふと 日 武下 階 田 武 考

杜 翁 釣 師 といはたり 日 玉 之

破しとる 子トリ 赤色の水へ来侍、

晴海ぬぬのかろ 佐州 養老寺 晴しなく 佐 精 左

うちも藤を カ 蔓に伐み 日 杜 翁 養 用

衣を 江 戸 藤をぬき 日 涼 二

詩 上毛 養老寺 水と海原 日 海 石

己 佐 が父 佐 八 佐 つ 佐 三 佐 に 佐 衣 佐 の 佐 保 佐 と 佐 記 佐 を 佐 算 史

う 佐 づ 佐 衣 佐 の 佐 ま 佐 と 佐 晴 佐 く 佐 赤 佐 う 佐 杜 佐 翁 佐 後 佐 翁

山里ハ物にまづ水ぞ本とて美を 日知る 玉嶺

あはれもさ物を結るまふとて 波静 日松

杜鵑亦とも静む月に啼く 梅多 上毛下仁田

杜鵑池にまゝ影を足む 一壺 武吉梅

横雲下ゆくあやなく 西羊 日誘西

夕月に柳静にまゝ 文史 侯山田

杜鵑初まゝ雨のあづらに 文史

杜鵑 汝がゆふはともまをさぬ 和也 江戸

菊 と言く志づるまゝ 踏巻 上毛八木原

日ハ糸にまゝ柳の志げにまゝ 夕水 日古橋

あはれ人の絶るぬぞ夏は柳多 平湖 日相生

むめむまゝあまき暑し柳 陰 島氏 日新町

川はの柳を接る涼し 藤守 京

その庭は涼し 記にハ柳 藤守 京

教子ヒルガホおほくみく境ホむ柳一河李 雨景

夏の来くかきこれ柳枝くくく 京 馬

く名し田水もまのいもやろ或陰 嵐九

柳を水く祀き家如涼一はよ 不及

柳陰涼一と紐ヒモをむまびりる 東馬

子ハあくと柳にくもむく 戸蓋

春柳の影や清水れささむゆく 有明

里の子れイカあつみくくくやろ地法 如 水

柳の海ハあをくくくく志ほみりる 洞芝

あはく海や蔓ツルのちくくハ志にり 咲 球

柳ふかにいくくくくはくあやなうけ 蒼 庸

けさく海のさくく地蔓に輪シ珠マを系 左 流

柳くほにけく一枝をけく楠サと 殊 標

柳かかハ月もえくく日ハけ 茂 時

卯の白や緋のおはまご晴〜記 行州平賀

あさうかやう卯のさのみはく〜記 日 言野所 南十

卯の白のひく〜あま〜記 日 松 女 あら記

あさうか〜記 日 素粒

雪ぞ〜記 カラウス 女 あまの

卯の〜記 伊豆山田 霞重

卯かやや〜記 日 葉

あさうかの〜記 能登七尾 晩九

卯の〜記 松 仲連

撰海人の〜記 女 蓮系

作〜記 日 相

手〜記 日 宇

松と〜記 日 白文

つく雪の吸へもさうに歩 源 三 日おほし

曇りハ浮海う志さうり小舎此つく 日 本 長 里

草葉も色かへしとぞびー此啼く 日 本 長 可 涼

さうくも建くりくさ家石に啼く 日 本 長 双 危

らわつに歩を精海るる雪のあ 日 本 長 双 言

あふにハつやむ雪あおと詠一記 日 本 長 琴 詩

君のまぬ座草に崎雪能啼く 日 本 長 下 元 乃 山

ゆ雪や踏まへてはじにハ詠りりぞ

雪とつくあふさあに歩ハ位むむ 日 本 長 香 茶

憔悴に月さうつゆけと草や刈海 日 本 長 其 友

赤いハ歩へてあさうさうさうくも 日 本 長 晴 給

あせし機之いりゆつく雪の 日 本 長 麓 雨

旅行ハ背をさうくそ松雪此つく 日 本 長 山 節

庭の庭に出てもさうや雪能あ 日 本 長 帆 州

雪のあはれをさるはひはるごと 日松

あはれをさるはひはるごと 伊藤大洲

あはれをさるはひはるごと 武吉梅

あはれをさるはひはるごと 伊藤大洲

あはれをさるはひはるごと 上毛新町

あはれをさるはひはるごと 日吉橋

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

あはれをさるはひはるごと 其石

日相生

はくくをあらぶしの書と序 一 計

やぐくまはまをやまに ナキ 松秀

その日れつ トモ新町 一甫

今はくと磨にも 奥州森坊 可貞

まきまへ 上毛新町 梅義

日と空く 上毛新町 東雨

みよ本のさ 上毛新町 相井

まよ日に物ねり 日ノ巻 藤

まハる序を来 武小山 千

序んとひと 下毛新町 遠雨

序ハ皆か 佐州小町 蕭雲

蹴踏ま序 武 十

まよ 江戸 海

まよ 佐州新町 九河

雪降りりり 雪はらり 雪はらり 雪はらり
松本 大和志堂 涼洲
松本 大和志堂 阿
 根に久 子花とりひ しくみど急きも
松本 大和志堂 曲に
 草花は 雪はらり しくはくは 松まぶし
松本 大和志堂
 帰侍てふ 花を しくど なや 皆いさ ぬ
日 おひ
 雪はらり しく しく しく の あ しく しく
日 おひ 其十
 雪はらり しく しく しく しく しく しく しく しく
日 可安

冬は木の雪いと志 涙く 曙に 夕暮
日 可安
 松は吹けく しく 松に ゆく 言し
女 梨下 日 可安
 雪はらり しく しく しく しく しく しく しく しく
上 尾新町 三戸
 雪はらり しく しく しく しく しく しく しく しく
上 尾新町 馬紅
 雪はらり しく しく しく しく しく しく しく しく
日 南勇
 雪はらり しく しく しく しく しく しく しく しく
日 楚嶋

雪言ヲキソ一ノ小本ノ雪ハ雪ノのりノさノぞノとト此ノ桐

花ノの音ヲさシれルるノこノとトあリ流ヲたシ純ニ梅ノ之ヲ

おノといフろノにテ音ノのヲあリゆク小ノ松ノ京ノ千ノ風ノ

津ノはシふシむシはシるノるノりノ家ノちノ音ノ巴ノねノ

夜ノ崎ノやノ音ノにテなリ家ノあノのノいノとト音ノ文ノ東ノ

海ノにテ音ノはシ雁ノ紙ノるノとトあリはシゆク霞ノ衛ノ

橋ノおノまシぐシ一ノ人ノのノあリやリとトはシ音ノ丁ノ乙ノ

日 岩村田

雪ノ深ノ一ノ鈴ノとトのノ音ノのノぬクけトとト奚ノ山ノ

あリとト音ノはシはシ換ノ多ノひノぬノ雪ノ踏ノくノけてト瑞ノ芝ノ

ふノ踏ノのノあリとト音ノはシにテあリとト音ノはシ深ノ系ノ苗ノ喉ノ

まシとト音ノはシふシとト音ノはシとト音ノはシ音ノ仙ノ命ノ

深ノ海ノ雪ノはシ折ノにテまシとト音ノはシとト音ノはシとト音ノはシ音ノ松ノ

位ノはシ路ノ水ノ簾ノきノくノしノ雪ノはシいノ海ノ位ノ花ノ

日ノのノいノでシまシぶシゆク来ノぬノ音ノ乃ノすノ山ノ蒼ノ里ノ

上元

雪降る松たぐ家ハ 凍スきぬぬ 取茶 上毛依衣

ひとけをくの子をあきりくさる音 貞字 武吉梅

牛の脊を拂りて来まハ雪降一 梅麿 老彦ま久

落子タフテハ碌のおく一ゆさりに於 漲水 日

断キツ本キ多キとくみ多悟一雪は散子 小日 信州若菜

神雪や見くく記し紙に束の曙アツク侍 文兆 誠後十日所

中ノの音炭負ひあてく雪不そく 山尾

枕さけむく山田にまき日をあくど 春竹 上毛おり

うきひまにゆく花の紐ヒモを解く 周州 日相生

まびしはの時をあてし雪は春 安里 京

多言しほおまひひて鳴く雪は 士信 武吉

雪の葉は吹く一雪は積り子 和永 誠後三日

金タマ箱子ハ玉とく多のるさりのを 乙 瑞 と日理

ふささの本は葉下乾く雪は少侍 武シタビ 下法てし

とえおひ

氷のくりにりみぢくさひて雪は降ふ

氷をささき破ちるまをいつこたり家 イナ 百竹

あハ合款子バのまを吟子ムふかきまに トモ 里郷

鳴く鳥にムクラ 花はく月の子は トモ 東奴

雨に降ふまをいつく鳴きふかきまを イナ 翠法

鳥を鳴き松花はく野へに下 トモ 菊

あまの雪トヨをくくま玉と見侍ま トモ 夢雨

こころに侍るまをいつくまをいつく

月影にまをいつくまをいつく トモ 女子

くまをいつくまをいつくまをいつく トモ 女子

雪降くまをいつくまをいつく トモ 女子

夕一の涼しく満るまをいつく トモ 女子

赤の間はまをいつくまをいつく トモ 女子

くまをいつくまをいつく トモ 東起

強位

修

りくそ

十六

二

こつご せきご せきご

十二

三

一承

十一

四

あやう

十

五

こよ 一喜

九

六

ひさえ つとご 美菱

八

七

はな ねんが わざん 左おん

七

八

一お

六

九

未了 宗帆 川夕

了了

いさこ

やと家

生梅

いさろ

ふ麻

素園

四道

常河

三十一

以下略

芳磯

法見摩

長一

志らあさ

五

歌

三子二百首余

誦人

三百廿人余

ふれがくくに田さの

君達中流くまもこの

起のまなくすくたが

かーはひてむやとこひなを

しにたづぶら休えそに

去原と

交くや

いくはくさうふもふりまき野ハ
雲もろふにまの物とて紙月

落洲は遠くふらねに松のはく
吹くひも原くさくあけら柳陰
すけどうちい雲井まふりさ杜能
ちりもツバ遠野のまはさくちり
へらくのまにさめくさるあはる
夜ふのまは月のかさくまき
娘めあはるまは娘もさやほく

と〜とや〜雪は降つみ〜うら

雪

と〜とや〜雪は降つみ〜うら

雪は降つみ〜うら

梅は咲き〜うら

と〜とや〜雪は降つみ〜うら

ゆく水に夏草の柳は歌原〜

朝う海はなが〜と曙アケ〜うら

此夕風はけりかぬ雪は晴〜

い〜とや〜雪は降つみ〜うら

待〜とや〜雪は降つみ〜うら

雪は降つみ〜うら

む〜や〜

うつらまに柳か眉も不ろ

ヤチマタハ街のまはあや〜

様又海人にえ〜柳のまは

杜船まはひ〜

影〜く夏の柳かま〜

船〜海に馬に物〜

ゆ〜玉の言に文〜

ゆ〜て受け〜

冬の日にか〜

船戸や〜

子 たち

梅さけむ〜

うらみまの梅に藤ぬもおふけ目
 東^{ヒシカレ} 後^ユ 朝日とさりしにさかむはく
 久々のやうらみさきき 杜 解 啼 く
 涼しさをあつさも夏のやるげうら
 赤にさびえほもちをぬうぬい
 夕さゆがかのそこのりにそが
 ぬはけしにさかこさうみ 枯 うら

友やまに花さかすけし 柿 せ 月
 夕朝月もど大香除ぬおささうら

あさくにけし 藤 とも けし
 捷足歌ふよし 短 香にまきとそけうら
 うい出ほよのハ 藤 けし けし 藤 けし けし

るを今も〜思をたゆみなく歌のゆりハ
いあ〜にほび〜もあふ極く〜
後拾遺金葉等に採られたるを今世に
おとす由ふ〜も〜は彼が〜
は〜といか〜と〜び〜
さ〜

君を〜の〜を〜に

は子撫〜
おとに物も〜
君を〜
の女〜
是れ〜
そが〜
と〜

きりぎりすのうらなひにせむしのほろりふり
— (うらなひ) 今も作らぬとて
おはせぬとておはせぬとておはせぬとて
けしきもあはれぬとておはせぬとて
— (うらなひ) 今も作らぬとて
おはせぬとておはせぬとておはせぬとて
— (うらなひ) 今も作らぬとて
おはせぬとておはせぬとておはせぬとて
— (うらなひ) 今も作らぬとて

あはれぬとておはせぬとておはせぬとて
あはれぬとておはせぬとておはせぬとて

水口

水口

あはれぬとておはせぬとておはせぬとて

あ

